

●赤谷の森のいま

環境教育についての活動報告

元(公財)日本自然保護協会
みなかみ町駐在職員

森本 裕希子

●地域と繋がる赤谷プロジェクト

谷川岳エコツーリズム推進協議会 中島 あづさ

●利根沼田のエネルギー発信源をめざして

— And Energy Bouldering × イヌワシ木材 —

ボルダリングジム「And Energy Bouldering」経営者 菊池 康太郎

(赤谷の森の三段紅葉 撮影: 赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYANO MORIDAYORI

赤谷の森だより

2025.12.1

vol. 60

AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ

「赤谷の家族」

(写真: 赤谷森林ふれあい推進センター)



クマタカの夫婦



イヌワシの夫婦



ニホンジカの親子たち



サルの親子



カモシカの親子

赤谷の森の
いま

環境教育に関しての 活動報告

新治小学校

「赤谷の森体験学習」

赤谷プロジェクトでは、以前から新治小学校で様々な環境教育が実施されてきました。熱心な方々によって活動が支えられてきた反面、人の入れ替わりによって取組が途絶えることもありました。

そこでこの数年専門家らに学びながら、学校での学習の位置づけを再確認し、担当者が代わっても取組が継続する体制構築と学習内容の改良を学校と進めてきました（左記QR）。体験当日だけでなく、通年で関わりを持つようにしたことも特徴です。

最初はヤマビルを怖がってばかりの生徒も、赤谷の森を歩けば、湧き水や木の実、動物の痕跡などを見つけて、「これは何？」と活発に聞いてくれます。その際ガイドが正解を答えるだけでなく、自分で調べられる特徴と一緒に確認して事後学習に繋げることも意識しています。後日学校へ赴き、生徒が調べても分からなかった疑問に答え、子どもたちとの対話の中で赤谷プロジェクトの活動や課題を伝えるなど、段階的に深い学びを提供しようとしています。

生徒の発見や興味関心を起点に、主体的に学び、課題解決を実践する

関係者向け資料
「赤谷の森体験学習の手引書」



新治小学校「赤谷の森体験学習」

「赤谷の森体験学習」は、担当教員らが代わっても継続していると学校から評価していただいています。

都内進学校との調査体験学習

武蔵中学校や海城中学校など都市部の進学校から、みなかみ町は学習フィールドとして魅力的だと言われています。その一翼を担う形で、赤谷の森での調査体験学習を、先生方やみなかみ町体験旅行、地域のガイドの皆さんと協力して形作ってきました。

例えば、旧赤沢スキー場では、二ホンジカの痕跡を調査する手法を生徒が自ら考案し、グループごとに調査し、結果をまとめて考察とともに発表するプログラムを実施していま

す。事前事後学習も含めてこれらの学習プログラムには、赤谷プロジェクトの先進的な取組と、それを科学的に評価するモニタリング調査のノウハウが活かされています。

単なる自然体験よりも深みのある調査体験学習の活動フィールドとガイドの存在が、地域の新たな魅力になるとも期待されています。



旧赤沢スキー場での調査体験学習

akayaカフェ

地域協議会メンバーと、小さなお子さんも親子で参加できる水辺の生きもの観察会や、地域の自然・歴史をよく知るベテランから学ぶ会など開催しています。

最初はオタマジャクシが気持ち悪

（公財）日本自然保護協会みなかみ町駐在職員として、2021年春〜2025年秋まで勤務した森本裕希子と申します。在職中に携わった環境教育に関して報告いたします。

くて触ることもできなかった子が、気付けば自ら捕まえてじっくり観察してたりします。

身近な生きものに触れ、沢山のいのち溢れる豊かな環境の中に暮らしていることに気付いたり、生活を支える水の源である森林について学んだりする企画を通して、赤谷プロジェクトに新しく関わる仲間が増えています。



ベテランとゆく赤谷の水源の森



水辺の生きもの観察会

今後について

赤谷プロジェクトに関わる専門家らは、環境教育や地域づくりがとても重要だと仰います。これからは、そんな専門家らと住民の架け橋にもなりたいです。私自身、赤谷プロジェクトを通してこの地域の面白さや魅力に気付き、地域をもっと好きになりました。同じような方が増えたら嬉しく思います。出産を機に退職しますが、今後も引き続きみなかみ町で暮らし子育てをしたいと考えています。

赤谷プロジェクトが発足当初から、森林づくりを地域住民の暮らしの豊かさ、地域の産業振興等に繋げることを目指していることも念頭に置きつつ、身近な仲間と小さな自然観察会など地道な活動を実践し、自然とともに笑顔になれる時間を重ねていけたら幸せだなと思っています。これまで大変お世話になりました。今後とも宜しくお願いいたします。

赤谷の日



ありがとう
ございました!



元（公財）日本自然保護協会
みなかみ町駐在職員

もりもと ゆきこ

森本 裕希子

地域と繋がる 赤谷プロジェクト

谷川岳エコツーリズム推進協議会

なかじま

中島 あづささん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

私が所属する谷川岳エコツーリズム推進協議会は「まもる・いかす・まじわる」の3本柱を軸として、谷川岳周辺の自然・文化等を体験しながら楽しめるエコツーリズムを推進することで、地域のさらなる発展を目指して活動を続けています。

私は事務局として、スタッフみんながいきいきと仕事に取り組める環境を整える仕事をしています。また、現在は、群馬県が主体となり進めている登山道整備ワーキンググループの一員として、「登山道整備」の体制づくりにも注力しています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

10年ほど前、私は前橋市内の広告会社に勤務していました。その頃みなかみ町は、ユネスコエコパーク登録への機運が高まっている時期でした。「まずは町民の皆さんに、エコパークの町として誇りをもっていただきたい」という町職員の方々の思いを受け、みなかみ町内で自然とともに生き、活躍されている方々を主人公とした動画「MINAKAMI HEART」の制作がスタートしました。私は制作チームの一員として携わるようになり、3本目の作品でご登場いただいた林泉さん(赤谷プロジェクト地域協議会会長)から、初めて赤谷プロジェクトの歴史や想いを聞かせていただきました。

転職し地元に戻ってきた後も、公私ともに赤谷プロジェクトの皆様との交流は続いています。今年は、研修会の開催や赤谷プロジェクトの各種調査への参加を通じて、当協議会と赤谷プロジェクトの交流を深めています。



子どもパークレンジャーでの雪の調査

今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

昨年から当協議会のインタープリターも、赤谷プロジェクトの植生調査に参加させていただいています。知識豊富な講師の方々へ同行いただきながら調査ができたことは、大きな刺激となり、今後の活動の拡がりが期待される良い企画となりました。

ぜひ今後も、調査や植生保護活動等、協力して実施ができればと考えています。

赤谷プロジェクトへ一言!(何でもOK!)

私はこの「自然と共に生きる町」に生まれ育ったことを、心から誇りに思っています。その思いは、Uターンで帰ってきてから、より一層強くなりました。赤谷プロジェクトをはじめ、地域の方々が熱意と目標をもって、この豊かな自然をまもり繋いでくださったおかげだと感じています。

これから先、今ある豊かな自然を未来へ繋ぐのは、私たち世代の役目です。歴史ある赤谷プロジェクトの皆様にお知恵をお借りしながら、地域一体となって進んでいきたいと思っています。



外来種の除去



エコツアーの様子

利根沼田の

エネルギー発信源をめざして

— And Energy Bouldering × イヌワシ木材 —

And Energy Bouldering(アンドエナジーボルダリング)は、今年2月に沼田市にオープンしたボルダリングジムです。といっても、スティックなジムではなく、年齢や経験関係なく誰もが身体を動かす楽しさを感じられる場所を目指しています。

開業準備では、アンケート協力やクラウドファンディングなど、地域の方々から多大なご支援をいただきました。地域に支えられて生まれたこの場所だからこそ、この地域に恩返しができる存在でありたいと思っています。

アンドエナジーでは受付カウンターに「イヌワシ木材」を使用しています。生物多様性の象徴であるイヌワシ。彼らの狩場を保全するために伐採された木材がイヌワシ木材です。イヌワシが生き残れる自然環境は決して当たり前ではなく、赤谷プロジェクトのような長年の努力によって守られています。

私自身自然ガイドとして活動していたこともあり、この豊かな自然がいかに多くの人を惹きつけているかを肌で感じています。イヌワシ木材を使うという小さな選択も、そんな自然への貢献となれば嬉しいです。



これからもボルダリングジムを通して、地域にエネルギーを添える存在であり続けたいと思っています。イヌワシ木材のカウンターの中でお待ちしておりますので、ぜひ遊びに来てください!

ボルダリングジム

「And Energy Bouldering」 経営者

きくち

菊池

こうたろう

康太郎さん



ボルダリングジムの内装



イヌワシ木材で作られた受付カウンター



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



R7.7.1~7.31

赤谷プロジェクト特設展示ブース設置

上毛高原駅構内に赤谷プロジェクトの取組紹介や広報誌を展示したPRブースを設置。



R7.7.5

アイチコーポレーション自然散策

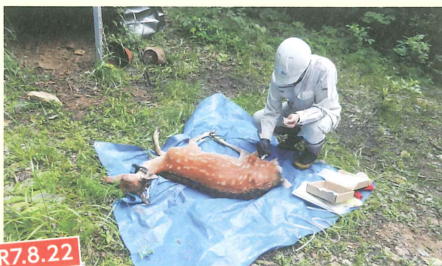
アイチコーポレーションの社員とその家族向けの自然散策を旧三国街道にて実施し、夏の森林を体感。



R7.7.26

赤谷の森自然散策(夏)

今年度は参加者とともに平標山山頂を目指す新たな取り組みを実施。夏の平標山と山の上から赤谷エリアを見渡せる眺望を満喫。



R7.8.22

ニホンジカGPS首輪装着

約2年ぶりにニホンジカを捕獲することに成功し、GPS首輪を装着し追跡調査を開始。



R7.8.29

みなかみ町連携会議

赤谷プロジェクトからはニホンジカ対策やイヌワシ木材関連等の取組を紹介し、今後の課題等について意見交換を実施。



R7.9.26~9.28

みなかみユネスコエコパークアウトドア感謝祭

道の駅「水紀行館」で行われたアウトドア感謝祭の赤谷プロジェクトブースにて、森のかけらストラップ作りを実施。



新しい WEBサイトがオープン!

新たに赤谷プロジェクトとイヌワシ木材のWEBサイトがオープンしました。赤谷プロジェクトのサイトには、赤谷プロジェクトがどんなプロジェクトなのかについての説明や関係者へのインタビュー記事などが掲載されています。また、イヌワシ木材のサイトからは、この取組の目的や木材の活用事例をチェックすることができます。ご興味のある方はぜひのぞいてみてください!

イヌワシ木材は
こちらから

赤谷プロジェクトは
こちらから



赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万ha(10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせください。

イベントのお知らせ

赤谷の森自然散策(冬)

日 令和8年2月7日(土)

時 9:00~16:00(予定)

場 いさみの村(群馬県利根郡みなかみ町)

料 無料(カレー提供予定)

申 要申込 ※1月上旬頃にHP等でお知らせします

群馬県立自然史博物館

特別展「ぐんまの自然の『いま』を伝える」

日 令和8年1月17日(土)~2月8日(日)

時 期間内は終日展示しております ※休館日等は博物館のHPをご確認ください

場 群馬県立自然史博物館

料 博物館のHPをご確認ください 申 不要

子供連れ
大歓迎!
★
難易度:低



トピックスやイベントの詳細は
赤谷センターHPをチェック!

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



赤谷プロジェクト サポーター募集!

赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。



■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会 ☞ akaya@nacsj.or.jp

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※「森のおもちゃの家」内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当 萩原 正郎

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 栗田 喜則

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp